

平成26年度 学校評価実施報告書

学校名(京都市立久世中学校)

1 平成26年度 重点評価項目

家庭教育力の向上・読書活動の推進・授業改善・自己有用感の育成

2 1回目評価

・重点評価項目について評価・改善していくための個別評価項目の設定 ・各項目にねらいを定めた取組の計画・実施 ・取組結果を検証するためのアンケート項目や各種指標の設定				・アンケート実施結果、その他指標の結果について整理	自己評価	学校関係者評価		
分野	評価項目	自校の取組	アンケート項目・各種指標	アンケート結果・各種指標結果	評価日	平成26年9月26日	評価日	平成26年10月9日
1 確かな学力	授業改善	・久世合同研究発表会 ・公開授業週間(6/11月)	・授業がわかりやすいこと	生徒は重要と考えているが、実現度は高いとはとらえていない。	分析 (成果と課題)	自己評価に 対する改善策	学校関係者評価に による意見	学校運営協議会・学 校評議員による改 善に向けた支援策
	読書の習慣化	・朝読書時間 ・学力向上プランに朝読書	・朝読書の時間に読書に集中すること ・学校外で読書すること	朝読書への取組は重要と考えておらず、ある程度の実現度もみられる				
	家庭学習の習慣化	・学力向上プランに家庭学習課題を設定	・家庭で1時間以上学習 ・家庭学習のアドバイス	アドバイスや家庭学習について、重要と考えているが、実現度は低い				
2 豊かな心	自己有用感の育成	・ふれあいひろば ・ふれあいトーク ・地域での奉仕活動	・事前、事後アンケートの振り返り	・取り組みに対して、満足している生徒が多い。	⇒	・さまざまな取り組みを通して、クラスでのまとめり、異年齢の人たちとの交流で自己有用感を感じることができる。 ・生活委員会などの取り組みでも概ね満足する結果がでている。	・子どもたちの学校生活の様子から、ピア・サポートの効果が伺える。 ・各学年とも、社会性変容アンケート結果の活用(分析・取組・成果など)が重要である。	・「ふれあいひろば」や「SBK活動」、「地域での奉仕活動」などの活動に対し、学校運営協議会の学校支援推進委員会としてどのような支援ができるのか議論を深める。
	規範意識の向上	・生活委員を中心とした、ペル着点検の取り組み ・あいさつ運動	・時間を守って授業を受ける ・あいさつを進んでいます	・重要度は高いが、実現度はそこまで高くない。				
	豊かな心の育成	・地域でのカエル書き活動 ・チャレンジ体験	・友達や家族を大切にする ・規則を守る	・注意を聞く、約束守る、感謝できるの項目が若干あがっている				
3 健やかな体	基本的生活習慣の確立	朝ごはん・睡眠時間の確保の呼びかけ	・朝ごはんを食べる。 ・7時間以上睡眠時間をとる。	・重要度は比較的高いが、実現度はそこまで高くない。	⇒	・朝ごはん・睡眠時間とともに学年が上がるにつれて低くなる傾向がある。 ・自ら適切に健康管理する能力を育成する必要がある。	・生徒への働きかけとともに、保護者への啓発を進めしていく。 ・生涯にわたっての行動に結びつくよう教科、道徳などでの関連した指導を推進する。	・学校運営協議会の学校支援推進委員会として、保護者啓発の講演会、学習会を企画するなど地域とともに支援していく。
	保健教育の充実	・薬物乱用防止、非行防止、防煙教室の実施。	・薬物乱用防止、非行防止、防煙教室の実施。	・薬物乱用防止、非行防止、防煙教室の実施。				
4 独自の取組	小中一貫教育の推進	・三校合同授業研修会の実施 ・久世学区合同教育課題研修会の開催。 ・小中合同教科主任会の新規開催。	・三校合同授業研修会の実施回数。 ・久世学区合同教育課題研修会の実施。 ・小中合同教科主任会の開催。	・年3回の授業研修会の実施。 ・外国語活動と英語の授業研修会を実施できた。	⇒	・授業研修会の参加者、研究協議の運営方法など来年度に向けて検討する必要がある。 ・ホームページの閲覧回数は毎年少しづつ増加傾向である。	・今年度初めて小中合同教科主任会が開催できたが、分析結果、それに対する取組の共通理解を徹底する。 ・HPについて、各学年から発信する回数を増やすことで更新の頻度を上げていく。	・久世三校の教職員だけでなく、保護者や地域の方と情報や課題を共有しながら同じ目標で取り組んでいくことが大切である。 ・新しい情報がリアルタイムに発信できる充実したホームページの更新をお願いしたい。
	情報発信の充実	積極的なホームページの更新	学校ホームページへのアクセス数	年間37,732回のアクセス数				

平成26年度 学校評価実施報告書

3 2回目評価

学校名(京都市立久世中学校)

重点評価項目について評価・改善していくための個別評価項目の設定					アンケート実施結果、その他指標の結果について整理	自己評価	学校関係者評価	
分野	評価項目	自校の取組	アンケート項目・各種指標	アンケート結果・各種指標結果	分析(成果と課題)	自己評価に対する改善策	評価日	評価者(いずれかに○)
1 確かな学力	授業改善	・久世合同授業研究会 ・公開授業週間(6/11月)	・授業がわかりやすいこと	重要と考えているが、実現度は高いとは捉えていない。	⇒	・確プロの予習シートや復習シートの活用は進んだが、まだ成果がでていない。 ・本時のねらいを示される教科にはばらつきがあるなど授業改善は不十分である。 ・朝読書はほぼ定着してきだが、その内容、学校外で	・授業改善をすすめるため、教科会、教科主任会の活性化、「学力分析と対策シート」の有効活用、公開授業週間・三校合同授業研究会の実施方法を考察などの取組を推進する。 ・より効果的な家庭学習の定着に向けた取組を推進する。	・授業改善に向けた取組の検証が必要だと考えられる。子どもたち、指導者側が達成感を得られる取組を模索する。 ・「学力分析と対策シート」を活用したPDCAサイクルの確立を進める。
	読書の習慣化	・朝読書時間 ・学力向上プランに朝読書	・朝読書の時間に読書に集中すること ・学校外で読書すること	朝読書への取り組みは重要と考えており、ある程度の実現度もみられる。		・各取組の振り返りの時間が十分確保することができなかった。 ・久世スタンダードの改訂に向け、校区小学校児童会と連携して合同あいさつ運動を実施した。	・久世三校のピア・サポートの取組の意義を年度当初に教職員で共通理解し実践していく。 ・道徳の教科化に向けた授業研究を推進し、道徳、総合、特活の年間計画を年度当初に策定する。	・子どもたちの自己有用感、自尊感情を育てるためピア・サポートの取組を推進していることの再確認を久世三校の教職員に徹底する。また、小学校との合同あいさつ運動など久世スタンダード児童生徒版の活用を進める。
	家庭学習の習慣化	・学力向上プランに家庭学習課題を設定	・家庭で1時間以上学習 ・家庭学習のアドバイス	3年生の「家庭学習」の実現度について、数値の改善が見られる。		・朝食の喫食率は引き続き高いが、学年進行と合わせ睡眠時間が減少している。 ・生徒の発達段階に合わせた各種講演会などは定められていている。	・朝食の喫食内容や睡眠時間など生徒会保健委員会の活動や久世スタンダード保護者版の活用を含めた取組を行い、健康に対する意識を高めたい。	・基本的生活習慣の確立については、保育園、小学校との連携が必須で、継続した取組が有効だと思われる。保護者を巻き込んだ取組を実施していきたい。
2 豊かな心	自己有用感の育成	・ふれあいひろば ・ふれあいトーク ・地域での奉仕活動	・事前、事後アンケートの振り返り	・取組には満足しているものの、自己有用感が高まるところまでは	⇒	・久世三校の共通テーマとして「あいさつ・読書・家庭学習」の定着を目指した取組を推進しているが、「あいさつ」については成果が出てきている。 ・ホームページの閲覧回数は増加している。	・久世三校の小中一貫教育をさらに推進するため、PDCAサイクルにそって取組を推進する。 ・リアルタイムにホームページを更新するため、学年主体で行う。	・久世スタンダードの改訂版である「久世スタンダードVer.2」が製作された。それを実効あるものにするための取組をすすめることにより、意識化を高めてほしい。
	規範意識の向上	・生活委員を中心とした、ペル着点検の取り組み ・あいさつ運動	・時間を守って授業を受ける ・あいさつを進んでる	・重要であると感じながらも、実現度は重要度ほど高くない。				
3 健やかな体	豊かな心の育成	・地域でのカエル書き活動 ・チャレンジ体験	・友達や家族を大切にする ・規則を守る	・地域での取組や家族と過ごす時間は大切だと思いながらも実現度	⇒			
	基本的生活習慣の確立	朝ごはん・睡眠時間の確保の呼びかけ	・朝ごはんを食べる。 ・7時間以上睡眠時間をとる。	3年生の実現度が低く、1、2年生よりニーズ度が高い。				
4 独自の取組	保健教育の充実	・薬物乱用防止、非行防止、防煙教室の実施。	・薬物乱用防止、非行防止、防煙教室の実施。	・薬物乱用防止、非行防止、防煙教室の実施。	⇒			
	小中一貫教育の推進	・三校合同授業研修会の実施 ・久世学区合同教育課題研修会の開催。 ・小中合同教科主任会の新規開催。	・三校合同授業研修会の実施回数。 ・久世学区合同教育課題研修会の実施。 ・小中合同教科主任会の開催。	・三校合同授業研修会を年3回実施。 ・小中英語科教員、英語教育支援員との連携。		・久世三校の共通テーマとして「あいさつ・読書・家庭学習」の定着を目指した取組を推進しているが、「あいさつ」については成果が出てきている。 ・ホームページの閲覧回数は増加している。	・久世三校の小中一貫教育をさらに推進するため、PDCAサイクルにそって取組を推進する。	・久世三校合同の学校行事、研究授業にはできるだけ参加し、「久世スタンダードVer.2」が常に意識され浸透するように支援、協力をしていく。
	情報発信の充実	積極的なホームページの更新	学校ホームページへのアクセス数	年間29,287回のアクセス数(4/1~2/13まで)				

4 総括・次年度の課題

- ・学力向上について、さまざまな取組の効果が表れているとは言い難い。授業改善とともに今年度途中から実施した「学力分析と対策シート」を活用したPDCAサイクルの確立に向け、力を注ぎたい。
- ・久世三校のピア・サポートのさらなる定着させるため、教職員の共通理解を深め、道徳、総合などとのクロスカリキュラムの策定も視野に入れたい。
- ・基本的な生活習慣の確立に向け、保育所、小学校との連携を深め、継続した取組を模索する。
- ・「久世スタンダードVer.2」が常に意識されて活用できる指針になる取組を、生徒、保護者、地域とともに実施していく。